

ICT 活用教育事例②

受け身な学生を惹きつける「クリッカー」

～学生の気持ちが2秒で分かる！
教員も学生も手応えを感じる授業には～

「クリッカー」とは？

「アンサーパッド」と呼ばれる小型のパッドで、授業やセミナーでの双方向のコミュニケーションをサポートしてくれます。盤面に0～9まで並んだスイッチを押すと、受信装置を付けたパソコンが回答を自動的に集計し、結果をスライドに映し出す仕組みです。



名刺ほどの大きさの「クリッカー」

「クリッカー」を導入したきっかけ

もともと、学生との「双方向のコミュニケーション」が上手いかなという課題がありました。クリッカーを導入する前は、手を挙げての意思表示を促していましたが、「恥ずかしい」「質問されたらどうしよう」等の不安があるようでほとんどの人は手を挙げませんでした。そんな中、愛媛大学の教育企画室が双方向コミュニケーションツールとして「クリッカー」を導入しました。使い方のセミナーやサポートも受けられたので活用しはじめました。

5分で覚えられる簡単操作！ パソコンが苦手でも大丈夫



操作性も抜群

操作はとても簡単なので、PowerPoint が使えれば十分です。初めての方でも、5分も操

作を練習すれば使えるようになります。学生も、世代的に携帯の操作に慣れているので理解が早いです。「手を挙げて」だと挙げていない学生がほとんどですが、クリッカーを使うと大多数が2～3秒程で意思表示してくれます。

「授業」や「セミナー」での効果 ＜学生の理解度をふまえた授業に＞

授業では、問題をいくつか用意し、学生に正解だと思う番号を押してもらいます。正解率の高い問題はスキップし、低ければそこを集中的に説明するなど臨機応変に対応しています。学生の得意不得意も理解した上で、効率良い授業ができるので、私自身も手応えを感じています。



積極的に授業に参加する学生

＜何より驚いたのは学生たちの変化＞

ボタンを押してアウトプットすることで、集中力や積極性も増えます。また、理解度をその都度確認することで達成感や満足感も生まれるため、最初は受け身だった姿勢も、だんだん積極的になってきます。学生のエネルギーを感じる瞬間ですね。

＜授業だけじゃない！ セミナー参加者の一体感も醸成＞

私は、セミナーでもクリッカーを活用しています。その場の雰囲気や参加者のレベルを把握するのに、非常に役立っています。セミナーは知らない者同士の集まりであることが多いため、まず



クリッカーを使って
学生の集中力や積極性を引き出す

大学院医学系研究科医学専攻統合医科学
浜井 盟子 助教

「何を求めて参加したのか」「組織で参加したのか、個人なのか」などの質問にクリッカーで答えてもらい、参加者のバックボーンを知るようにしています。そうすると、参加者同士が、立場やモチベーションを共有でき、場の一体感が生まれ、個人の目的意識も高まります。また、講演内容についての簡単な質問をして、参加者の知識度もチェックします。状況を理解した上で進めることができるので、より効果的なセミナーができています。



セミナー風景

聴講者の安心感が、 正直に答える勇気をもたらす

誰がどの回答をしたか分からないので、聴講者は本音で設問

に答えてくれます。そして、無意識に頭に浮かんだものを回答するので、一種のカタルシス効果※1も生まれます。

※1：心の中にある様々な不安や苦悩などの感情を言葉にすると、その苦痛が解消され、安定感を得られる効果

クリッカーを体験した学生の声



◆結果を見て自己発見に繋がったり、教員とのコミュニケーションが取れたりするので、また使ってみてみたいと思いました。(1回生・男子学生)◆アンケート結果がすぐに画面に表示され、周りの子がどんな事を考えているのかが分かるので、面白く感じました。(1回生・女子学生)

【使用しているクリッカー】

TurnPoint 社の ResponseCard

http://www.keepad.com/jp/tp_tp_software.php

